

回覧

< エクステンテッド・エディション～Extended edition～ >

令和2年(2020年)度 第四回 定例役員会 2020年4月4日(土)

～2020年4月16日(木)作成～

< 館長報告 > 追加・拡張版

館長 土井 承夫 (どいよしお)

4月に入って最後まで未発生で残っていた鳥取県にも新型コロナ・ウィルス感染者が出て、いよいよ他人事では済まされない深刻な状況になってきました。先日、普段より何かとご指導頂いている東京の某大学名誉教授より、オン・ラインで「イギリスのエリザベス女王が5日の夜にイギリス国民に向けてコロナウィルス感染危機についてのテレビ演説されたので視聴しておく様に」とのアドバイスを頂いた。イギリスのコロナ感染状況は5日時点で感染者47,806人、死者4,934人と日本とは桁が違う。またボリス・ジョンソン首相が感染し、この時点で集中医療室(インテンシブ・ケア・ユニット:ICU)で治療を受けていた。この状況下でエリザベス女王陛下が行ったスピーチの全文をそのまま下に掲載します。西欧社会の頂点に立つ一人が発した言葉は「ウイルスとの戦に成功します」「またお会いします」という異例の演説だった。女王が特別な事態に際して国民に語りかけるのは、即位68年間でこれが5回目となる。(中高生や受験生の皆さんは下の英語の文章を読んでみてください。英語に興味のない方は飛ばして読んで下さい。)

<演説の全文> 日本時間2020年4月6日午前7時(ロンドンでは5日午後10時)放送
～Speech Her Majesty Queen Elizabeth, televised by BBC TV on 5th April 2020・・
recalling Wartime Sacrifices and Urges U.K. to Show Strength～

<日本語訳>

みなさん、ますます大変な思いをされていると思います。この国の生活が混乱している今、この混乱で悲しみを経験している人もいます。大勢が経済的に大変な思いをしています。そして、私たち全員の日常生活がすさまじく変わってしまいました。(次葉へつづく)



<テレビ演説されるエリザベス女王:93歳>

国民健康サービス（NHS）の最前線にいる皆さんに感謝します。その他の介護の仕事や不可欠な役目を果たしている皆さんにも、つまり自分の事は顧みず自宅以外で毎日の職務を果たしている皆さんです。

私たち全員を支えるために努力している皆さんに私だけでなく国民全員が感謝しているはずです。

皆さんが懸命に働いてくださる 1 時間 1 時間ごとに、私たちはもっと普通の日々に近づくのです。自宅にとどまっている皆さんにも感謝します。皆さんが家にいる事で、弱い人たちを助けそれを愛する人を既に失った大勢の苦しみを他の多くの家族が経験しないで済むのです。

私たちはみんな一緒にこの病と戦っています。皆が今後も団結し強い意志を持ち続ければ、必ずこの病を克服できます。(a) いずれはこの時を振り返りこの難局に自分がどう反応したのかを考えた時に、誰もが自分を誇りに思えるよう願っています。そしてこの世代のイギリス人も相変わらずたくましかったと後の世代に言われるように、自己規律や静かながら明るく固い意志、そして仲間を大切にする気持ちがこの国の特徴であり続ける様に。自分たちが何者かという誇りは、過去の一部ではなく私たちの現在と未来を定めるものです。

イギリス連合王国がひとつになって、医療や介護スタッフなどの不可欠な職務の人たちに拍手したことは、この国の精神を表したものとして記憶されるでしょう。子供たちが描く虹がそのシンボルになります。英連邦と世界の各地で、心温まる助け合いが相次いでいます。

食べ物や医療品を届けたり、ご近所の方が大丈夫かと声をかけあったり、また救護に協力するため事業内容を変更したりして、自主隔離は時に辛い事もありますが、あらゆる信仰の人がそして信仰を持たない人も急ぐのをやめ、ゆっくり落ち着いて、祈りや瞑想で自省する良い機会だと大勢が気づいています。

私にとって初めての放送だった 1940 年（昭和 15 年）の事を思い出します。妹が手伝ってくれました。子どもだった私たちは、ここウィンザー城から安全のため疎開させられた子どもたちに語り掛けました。今また大勢が愛する人と離れる痛みをつらく感じる事でしょう。

けれども今も当時も私たちはこれが正しい事なのだとの心の奥底で承知しています。私たちはこれまでも様々な困難に直面してきましたが、これは今までとは違います。今回は世界中の国々と一緒になって同じ取り組みに参加しています。科学の目覚ましい躍進と、直感的な思いやりによってこの病気を治すことに私たちは成功しますし、その成功は私たち全員 1 人 1 人のものになります。

(b) まだ、色々堪（こら）えなくてはならないかも知れませんが、今より良い日々は戻ってくるとそれを心の支えにしましょう。

おともだちにまた会えます。

家族にもまた会えます。

みなさん、

またお会いします。

けれども、とりあえず今はみなさんに感謝し心より申し上げます。

どうぞ、みなさんお元気で。

～おわり～

* (a)と(b)の下線の部分については、特に女王が語られた英語（クウィーンズ・イングリッシュ）の原文をそのまま下記します。

- (a) I hope in the years to come everyone will be able to take pride in how they responded to this challenge and those who come after us will say that the Britons of this generation were as strong as any . . .
- (b) We should take comfort that while we may have more still to endure, better days will return, “ We will be with our friends again, We will be with our families again, We will meet again.”

<追記> エリザベス女王が語られた内容につき感想を述べるのは恐ろしい事ではありますが、公民館建設が1年延期になったこと等も含めて、これからも多くの試練があるでしょうが、女王陛下の言葉にある様に今より良い日々は必ずやってくる事を心の支えにして福庭住民全員が相手への思いやりでもって結束し進んでいくことを切に希望いたします。長文を読んで頂きありがとうございました。なお、予告していた「自主的な寄付金の最新集計結果」と「心に残った一曲」第6弾、さだまさし「案山子（かかし）」のお話は次回5月号の「館長報告」に記載いたします。ご了承下さい。

以上